

令和 5 年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状を踏まえ、今年度は、2項目に重点課題を絞って実践に取り組んだ。各重点課題の評価は次のとおりである。

(1) 教職員の指導力向上

選択制オーダー研修会と互見授業を実施した。選択制オーダー研修会では、教員が日頃抱えている悩みや疑問を基に、ニーズの高かった内容について、内部人材を活用し、事例検討会や座談会、講義などの形式で、八つの研修会から選択できるようにした。互見授業では、授業参観シートを活用することで、授業者と参観者が意見を交換し合うことができ、授業改善につながった。また、公開授業を録画し参観者の都合の良い時間に視聴できるようにしたり、参観してほしい時間帯を知らせたりするなどの工夫を行った。

二つの取組とも、指導力の向上につながったという意見がほとんどであった。しかし、日々の授業準備や業務などのため、研修会に参加できなかつたり、授業を参観するのが難しかったりする教職員もおり、今後、実施方法などの検討をさらに進めていく必要がある

(2) インシデント・アクシデントの未然防止・再発防止対策

インシデント・アクシデント防止のための研修会を各学部2回と緊急対応アクションカードを用いた緊急対応訓練を実施した。研修会では、想定される緊急場面や過去の事例を基に話し合い、教室環境を整備したり、日頃からの対応を検討したりした。緊急対応訓練では、緊急対応アクションカードの使い方や緊急搬送時の対応について講習会で共通理解を図った上で、水中活動時、医療的ケア児の対処時、給食時など様々な場면을想定した模擬訓練を11回実施した。

研修会や緊急対応訓練を通して、教職員の危機管理意識が高まり、教室や学習環境を再確認し、未然防止・再発防止のための対策を講じることができた。また、緊急対応アクションカードを使用した訓練を重ねることにより、対応を確認しながら、迅速に動くことができるようになった。今後も、緊急時に迅速に対応できる力を維持し続けるために研修会や緊急対応訓練を継続していく必要がある。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度の重点課題に取り上げた2項目は、様々な教育的ニーズがある児童生徒が在籍する本校にとって、大切な取組で継続して取り組んでいかなければならない内容である。次年度に向けた方策等については、以下のとおりである。

(1) 教職員の指導力向上については、内部人材を活用した研修会の実施の仕方や負担感のない互見授業の在り方を検討し、工夫しながら、教職員が相互により主体的に学び合えるように取り組んでいきたい。

(2) インシデント・アクシデントの未然防止・再発防止対策については、安全・安心な教育活動を実施していくため、研修会や訓練などを継続して行い、危機管理意識を常に持ち続けられるようにしていく必要がある。今後も、一人一人の教職員が状況に応じた適切な判断、臨機応変に行動する力、周囲の教職員と情報共有して連携する力を身に付けることができるよう効果的な研修会や様々な状況を想定した緊急対応訓練を実施していきたい。

8 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 富山総合支援学校アクションプラン - 1 - 研修部	
重点項目	学習活動－研修
重点課題	「教職員の指導力向上」
現 状	コロナ禍により、教職員相互に授業を参観し合い、学び合う機会が大幅に減少している。また、昨年度行った学校課題研究に関する教職員アンケートの結果から、より専門性の高い指導力を身に付けるための方策として、「内部人材の活用」「授業参観」「自由参加型の選択研修」などが求められていることが分かった。
達成目標	選択制オーダー研修会 一人一つ以上参加 互見授業実施後の授業参観シートの質問「指導力の向上につながった」と回答した割合が80%以上
方 策	<p>【選択制オーダー研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が日頃抱えている悩みや疑問を基に、共に学び、考え、解決したい事柄を把握し、ニーズが高かった内容から、本校の教職員を講師とした数種類の研修会を提案する。 ・夏季休業中を中心に研修会を行い、一人一つ以上選択して参加し、専門性を培う機会とする。 <p>【互見授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互見授業期間を設定し、一人一つ以上の授業を公開及び参観する。 ・授業者は、公開する授業科目・日時・単元名・「主体的・対話的で深い学びの視点」を、「授業公開希望一覧表」に入力する。研修部は月ごとに「授業公開希望一覧表」を掲示する。 ・授業参観シートを用いて授業者、参観者相互に意見・情報交換を行い、指導方法や支援方法について理解を深め、授業改善に生かすようにする。
達成度	一人一つ以上の参加率 92.2%（77名中71名）、参加者のべ人数は89名 指導力の向上につながったと回答 100%
具体的な取組状況	<p>【選択制オーダー研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修部からの働き掛けが必要であったが、「生徒同士、生徒と教師の距離感」「小学部の外国語の指導」「Google Workspace for Education に関する操作方法」「発達障害の理解と対応」など、計八つの研修会を行った。実施方法としては、事例検討会、座談会、講義など、幅広い形式での取組であった。 ・指導力の向上につながったと回答した割合は97%であった。 <p>【互見授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一つ以上の授業公開率は98.4%（61名中60名）、一人一つ以上の授業参観率（授業参観シート提出者）は84.2%（76名中64名）であった。 ・授業参観シート提出者（管理職・寄宿舎指導員を除く）の約半数が他学部の授業を参観しており、授業参観シートを用いて学部を超えた意見交換ができた。 ・授業公開時間と参観者自身の空き時間とが一致しないことが多いため、VTRによる視聴や見学時間の指定などを行うことで、授業参観者の割合が増えた。 ・授業参観シートをPDFにして知らせることで、多様な意見に触れる機会とした。
評価	B 内部人材を活用した自由参加型研修会や授業公開・参観を通じた授業改善を行うことができたが、選択制オーダー研修会の参加率が100%に満たなかった。また、研修会に主体的に参加できるようにするための課題が多かった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業のように互いに授業を公開し合うことで、児童生徒の実態を正しく把握する力を高めたり、先輩教師の授業を気軽に参観できる雰囲気ができ、若手教師の育成につながったりするので、今後も続けていくとよい。 ・特別支援教育の基礎や専門性の向上などを目指し、毎年学ぶべき内容を含んだ必須研修と興味・関心等に応じた選択研修とをバランスよく組み合わせ、研修を企画運営していくことが必要である。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・選択制オーダー研修会では、目的を周知し、研修部からの働き掛けがなくても教員自ら研修を提案してもらえるよう工夫することが必要である。 ・互見授業では、実施期間やVTRによる視聴、学部内における授業調整など、授業を参観できるよう工夫することが必要である。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	学校生活－保健管理	
重点課題	「インシデント・アクシデントの未然防止と再発防止対策」	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデントの中には未然に防げる事案があり、見逃すと重大な事態になってしまいうアクシデントの発生につながる事案がある。 ・インシデント・アクシデントが発生したときに、対応を迅速に行い、被害を最小限に抑えることが重要であるため、毎年、緊急対応訓練を行っている。しかし、職員間に「緊急時、誰がどのように動けばいいのか分からない」といった不安があった。その対応策として、昨年度、緊急対応アクションカードを作成した。 	
達成目標	インシデント・アクシデント防止のための研修会 年2回以上	緊急対応アクションカードを用いた緊急対応訓練の回数 年3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態や行動から想定される緊急場面とその対応について考えることにより、危機管理意識を高め、事故を未然に防ぐ視点で学習環境を整えることができるようにする。 ・医師から救急搬送の指示が出ている児童生徒とその状態について共通理解を図り、緊急時に適切な対応ができるようにする。 ・過去のインシデント・アクシデントの事例を基にグループワークを行い、原因と対応について整理したり、検討したりすることで、事故の未然防止・再発防止に対応する力を身に付ける。 ・緊急対応アクションカードを使用して対応訓練を行うことで、緊急時に、迷わず迅速に行動できるようにする。 	
達成度	インシデント・アクシデント防止のための研修会実施率 100% (2回実施)	緊急対応アクションカードを用いた緊急対応訓練実施率 100% (11事例実施)
具体的な取組状況	<p>【インシデント・アクシデント防止のための研修会】</p> <p><第1回>児童生徒の実態や行動から想定される緊急場面を設定し、その対応について考え、事故を未然に防ぐ視点で教室環境を整えた。</p> <p><第2回>過去のインシデントの事例を基に、グループワークを行い、原因と対応について検討し、日頃の対応に生かすようにした。</p> <p>【緊急対応アクションカードを用いた緊急対応訓練】</p> <p><講習会>緊急対応アクションカードの使用方法及び医師から救急搬送の指示が出ている児童生徒とその対応について共通理解を図った。</p> <p><模擬訓練></p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1回 (1事例) 水中活動中の事例を設定し、教職員が模擬訓練を行った。 ○第2回 (2事例) 医療的ケア児を対象とした事例を設定し、教職員と看護職員が連携しながら模擬訓練を行った。 ○第3回 (8事例) 給食指導中の事故、転倒、てんかん発作時の対応等の事例を設定し、教職員が模擬訓練を行った。 	
評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント・アクシデント防止のための研修会を行ったことで、教員の危機管理意識が高まり、教室環境や学習環境を整えるなど未然に防ぐための対策を行うことができた。 ・緊急対応アクションカードを用いた緊急対応訓練を繰り返し行ったことで、迅速に対応する力が向上した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に迅速に対応する力を維持し続けるために、研修会や緊急対応訓練は継続していくことが大切である。 ・事故を少なくするためには、環境を整備する必要がある。てんかん発作時や医療的ケア児の対応は個別になることが多いが、複雑化しすぎるとミスが多くなるため、個別化と標準化のバランスを考えながらマニュアルの整備をすると良い。 	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント・アクシデントを未然に防ぐには、教職員の危機管理意識を維持し続けることが大切であるため、研修会を継続していくことが必要である。 ・緊急対応アクションカードに頼りすぎることなく、状況に応じて適切な判断をして臨機応変に行動する力や周囲の教職員と情報を共有して連携する力を身に付けるために、繰り返し緊急対応訓練を行っていくことが必要である。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)